

## I 岡山県教育委員会の活動状況

### 〈教育委員会会議の開催状況〉

- ・岡山県教育委員会は、令和2年度は、年間19回の教育委員会会議を開催し、議案28件、協議事項20件、報告事項17件などについて審議等を行った。

### 〈主な審議内容と審議回数〉

- ・「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」について 5回
- ・「第3次岡山県教育振興基本計画」について 8回
- ・新型コロナウイルス感染症への対応について 3回
- ・令和2年度岡山県学力・学習状況調査結果の概要について 1回
- ・岡山県いじめ問題対策連絡協議会及び専門委員会委員の任命について 1回

### 〈有識者による評価意見〉

- ・感染症拡大という事態の中、学校の一斉休校、社会教育施設の臨時休館など、前代未聞の事態が続いた。緊急事態に対応できる教育委員会であるかが問われた1年だった。対応は適切であったか検証・分析しておくことが望まれる。

（青山学院大学教育人間科学部 教授 山本珠美氏）

### 〈県教委の考え方〉

- ・積み重ねられる感染症に関する専門的な知見や教育委員会会議での議論を踏まえ、試行錯誤しながらICTを活用した学習指導やオンラインでの講座による学びの機会提供など、適時、適切な対応に努めてきた。今後の感染症のまん延状況も注視しながら、適切なタイミングでの検証について、検討していきたい。

## II 個別の施策・事業の実施状況

### 1 魅力ある学校づくりの推進

#### 〈取組成果〉

- ・商品開発から販売戦略の策定、広報、効果検証までの一連のプロセスにおいて、企業から高いレベルで指導・助言を受け、企業との連携を重視した作業学習モデルの研究を行い、働く意欲の向上を図るとともに、働く態度や技能の育成を行った。

#### 〈有識者による評価意見〉

- ・少し気になるのは特別支援学校高等部卒業生の就労の割合が微減傾向にあることだ。経済界からの要望で労働力不足の解消のために外国人労働者の受け入れを容易にできるようになり、外国人労働者が増えていることを考えると複雑な気持ちだ。

（ライト電業株式会社 代表取締役社長 岡本典久氏）

※特別支援学校高等部卒業生の就労の割合

46.2%(H28)⇒43.6%(H29)⇒45.8%(H30)⇒43.1%(R1)⇒38.6%(R2)

#### 〈県教委の考え方〉

- ・比較的障害の程度が重い生徒の場合、卒業後福祉施設等の利用者等も多いが、これらを除く

卒業生のうち就職希望者の就職率は平成28年度から令和2年度において98%程度と高い水準を維持しており、引き続き事業者等と連携しながら、就労の支援に努めていく。

## 2 学びのチャレンジ精神の育成

〈取組成果〉

- ・ G I G Aスクール構想の早期実現を目指し、児童生徒1人1台端末や学校ICT環境の整備を図るとともに、eラーニングでユニット型の研修を実施するなど、教員のICT活用指導力の向上に努めた。

〈有識者による評価意見〉

- ・ ICTを効果的に活用した学習活動・G I G Aスクール構想実現に向けた確実な活動は進展している。岡山県が他県をリードする発想で、新たな取組がスタートすることを期待する。  
(ライト電業株式会社 代表取締役社長 岡本典久氏)

〈県教委の考え方〉

- ・ ICTを主体的に活用することで、各教科等での学びを深めるとともに、自ら問題を発見・解決し、自分の考えを形成する力の育成を図ってきた。国の調査でICT活用指導力は上位だが、一層の向上のため、効果的な活用場面の設計や授業づくりに関する研修に取り組むとともに、ICTを積極的に活用した新しい教育を岡山から発信していきたい。

## 3 家庭・地域の教育力の向上

〈取組成果〉

- ・ 小中学生が将来の夢や目標を持ち、その実現に向けた学習に取り組む一助とするため、岡山県や居住する地域を題材とする学習に取り組んだ成果を募集し、優れた取組を「晴れの国おかやま学びたい賞」として表彰することで、キャリア教育を推進した。

〈有識者による評価意見〉

- ・ 将来の夢や目標を持っている児童の割合が低下傾向なのが気がかりだ。コロナ禍による一時的な低下であればよいが、中学校3年生の傾向をみても平成28年度当初と比べ、横ばい、あるいはやや減だ。

(青山学院大学教育人間科学部 教授 山本珠美氏)

※将来の夢や目標を持っている児童の割合 (小学校6年生)

70.8%(H28)⇒67.4%(H29)⇒65.9%(H30)⇒測定不能(R1)⇒60.2%(R2)

※将来の夢や目標を持っている生徒の割合 (中学校3年生)

44.4%(H28)⇒45.0%(H29)⇒44.1%(H30)⇒測定不能(R1)⇒41.2%(R2)

〈県教委の考え方〉

- ・ 将来の夢や目標を持つ児童生徒が増えるよう、多様な経験を通じて、自ら課題設定をし、解決に向けての道筋を考える学習形態である課題解決型の学習(PBL)の導入などにより、学びの原動力となる夢を育む教育を推進していく。

#### 4 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成

##### 〈取組成果〉

- ・アプリを利用した匿名によるいじめ等の相談・報告システムの1人1台端末へのダウンロードを推進して、全県立学校で活用し、いじめの早期発見・早期対応に取り組んだ。

##### 〈有識者による評価意見〉

- ・いじめ対策として報告・相談アプリを1人1台端末に導入していることは、前年度からの進展である。これにより教員間の情報共有や学校での組織的対応が促進され、実際にいじめの防止につながるとともに、そのプロセスに関する知見の蓄積を期待する。

(国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 総括研究官 卯月由佳氏)

##### 〈県教委の考え方〉

- ・匿名で気軽に相談できることが、生徒の安心感やいじめの抑止、早期発見・早期対応につながるなど、一定の成果があると考えている。引き続き、積極的な活用の呼びかけや対応の好事例の周知に努めていく。

#### 5 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興

##### 〈取組成果〉

- ・感染症の影響により、生涯学習大学の参集型の連携講座が中止となる中、オンライン講座の登録を進めるなど、県民に多様な学びの機会を提供した。

##### 〈有識者による評価意見〉

- ・コロナ禍でも感染防止対策を取り、あるいはオンラインを活用するなど開催方法を工夫し学びを継続させたことには、大変な尽力があったと思う。生涯学習は長期的な心身の健康に寄与すると考えられ、今後も「生涯学習活動を支援する環境づくり」の継続・充実を期待する。

(国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 総括研究官 卯月由佳氏)

##### 〈県教委の考え方〉

- ・学校の一斉臨時休業に伴い、オンラインを通じて、自宅等で楽しみながら、主体的に探究的な学習に取り組めるよう特別サイトを開設するなど、コロナ禍においても、県民一人ひとりが自らの興味や関心に基づき、学べるよう取り組んできた。引き続き、特別サイトのコンテンツを充実させるなど、ICTの活用等により多様な学習機会の提供に努めたい。